

私立中学・高校のための AI 活用ガイド



ご提案書



エグゼクティブサマリー

私立中高では、教員・事務職員の業務過多と属人化が慢性化し、少子化による募集競争も激しさを増しています。一方でAI活用は「何から始めるか」「生徒情報の安全性」への不安から、踏み出せない学校が少なくありません。

本提案は、いきなりツールを導入するのではなく、「業務の整理」から始めるアプローチです。現状を可視化し、効果の高い業務から小さく試し、ルールと研修込みで現場に定着させます。社内SE・PMの実務経験と、私立高校での導入実績をもとに、専門用語に頼らず伴走します。

学校が直面している課題

- **業務過多と長時間労働**：通知文・要項・議事録・集計・保護者対応など、付随業務が増え続けている。
- **属人化**：業務が特定の教員・職員の経験と記憶に依存し、その人が不在だと回らない。
- **IT専任の不在**：相談先が定まらず、トラブルやツール選定が場当たりになりがち。
- **募集競争**：少子化のなか、広報・募集の質とスピードが問われる。
- **AIへの期待と不安の同居**：効率化したいが、「何から」「安全か」「教育的に問題ないか」が不透明。

私たちのアプローチ — "導入"の前に"整理"

AIは「決まった作業を速くこなす道具」です。裏を返せば、**業務の流れが曖昧なままでは、うまく当てはめられません**。そこで私たちは、ツール選定の前に次の3点を明確化します。

1. この業務で一番なくしたい手間は何か
2. その仕組みを、誰がどう使うのか
3. うまくいったかを、何で判断するのか

この3つが言語化できれば、ツール選びも投資判断も格段にやりやすくなります。

想定ユースケース（優先度つき）



優先	領域	具体例	効果の測り方（例）
★★★	校務・事務	通知/要項/議事録の素案、アンケート集計・可視化、一次問い合わせ対応	作成・集計時間の削減（○削減）
★★★	保護者・受験生対応	説明会案内・FAQ・メール返信の下書き、多言語対応	返信リードタイム短縮、対応件数
★★☆	入試・募集・広報	学校紹介・SNS・パンフ原稿の素案、要項/配布物の整備	制作工数削減、発信頻度
★★☆	教材・授業支援	教材・小テストのたたき台、採点補助	準備時間の削減（最終判断は教員）
★☆☆	データ活用	出欠・成績・アンケートの整理と可視化	集計工数、可視化の即時性

★は私立中高での効果の出やすさ・着手しやすさの目安。貴校の状況に応じて優先度を一緒に決めます。

進め方（フェーズと成果物）



フェーズ1：現状整理（目安 2～4週間）

- 業務の棚卸し、業務フローの可視化、AI適用候補と"そもそも無くせる業務"の仕分け
- 成果物：現状業務マップ、優先業務リスト、想定効果と進め方の提案

フェーズ2：PoC（小さく試す | 目安 3～6週間）

- 最も効く1～2業務で試行・効果検証
- 成果物：試作ツール/プロンプト、効果測定レポート、本運用可否の判断材料

フェーズ3：定着・運用（継続）

- 教職員が使える形への整備、利用ルール策定、簡単な研修、運用サポート
- 成果物：運用手順、利用ガイドライン、研修資料

※ 期間は規模・対象業務により前後します。まずはフェーズ1単独からでも開始可能です。

安全・コンプライアンス設計

- **データ最小化**：生徒の個人情報を入れない設計を基本とし、必要に応じてクローズド（社内完結型）構成を選択。
- **利用ルールの明文化**：「入れてよい情報／ダメな情報」「使ってよい場面」を文書化し、教職員が迷わない状態に。
- **ガイドライン整合**：自治体・学校・学校法人の方針に沿った形へ調整。
- **人が判断する原則**：評価・指導・合否など重要な判断と責任は必ず人が持つ前提で設計。

体制と進行

- 社内SE・PMとして、**要件整理～導入～運用まで一貫して窓口を一本化**。
- 学校とベンダーの間に立つ"通訳"として、専門用語に頼らず進めます。
- 必要に応じて開発チームと連携（過去案件では少人数～数名体制でPM・テックリードを担当）。

料金・始め方

- **入口：5万円のAI活用診断** — 現状整理と「どこにAIが効くか」のご提案。
- **無料相談** — 要件が固まっていない段階でのご相談を歓迎。
- フェーズ2以降は、対象業務・規模に応じて個別お見積り。**小さく始めて、効果を見ながら拡大**できます。

実績（抜粋）

- **教育 | 私立高校 採点業務システム**：PMとして約1年・継続中（進行管理・開発チーム連携）
- **社内SE | 上場企業**：業務改善・ベンダー管理・監査対応まで一貫（約5年）
- **医療 | ウェアラブル/クラウド聴診バックエンド**：開発PMとして要件定義～納品
- ほかに不動産（CTOとしてオンプレ→クラウド移管）、広告（自動出稿ソフトのテックリード）など

守秘のため社名は伏せています。商談時に可能な範囲で詳細をご説明します。

よくあるご質問

- Q. ITに詳しい職員がいなくても大丈夫？** A. はい。専門用語に頼らず、現場・経営の言葉で進めます。窓口も一本化します。
- Q. 生徒の個人情報が心配です。** A. 個人情報を入れない設計を基本に、クローズド運用も選べます。利用ルールも明文化します。
- Q. 大きな予算をかけずに始められますか？** A. 5万円の活用診断やフェーズ1単独から開始できます。効果を見ながら小さく拡大します。

Q. 教育の質や評価への影響は？ A. AIは下準備や補助に使い、評価・指導の最終判断は必ず教員が持つ前提で設計します。

次のステップ

1. 無料相談（オンライン可）で、貴校の状況と優先業務をヒアリング
2. 5万円のAI活用診断 / フェーズ1（現状整理）から着手
3. PoCで効果を確認し、定着・拡大へ

オーバーライト株式会社（OVERWRITE INC.） 神戸 | Web: overwrite.jp | お問い合わせ: overwrite.jp
の問い合わせフォーム



スマホで読み取り → **無料相談へ**

overwrite.jp（お問い合わせ・5万円AI活用診断はこちら）